



東日本エリアにおける保守・運用等に関する新規研修の開始について

研修部 東日本研修センタ

1. はじめに

これまでの施工を中心とした業務から、最近は保守・運用等への業務の拡大が進んできています。今回、東日本エリアについてこれらの動きに対応するため新たに10科班の研修を立ち上げましたので、その概要をご紹介します。

2. これまでの取り組み

所外系設備の保守・運用業務の拡大に対応するため、昨年度、「ガス設備保守技術科研修」をパイロットで立ち上げましたが、今年度から本格展開としてこれまで6回開催し、延べ73人の多くの皆様にご参加いただきました。保守・運用は、そのシステムへの知識があり、不具合が



図1 ガス設備保守技術科研修

生じた際にどのような対応をしなければいけないのか判断できるスキルを必要としますので、実際の設備に近い形態での研修が有用です。今回、東日本研修センタに実際のガス設備を設置し、あわせて保守システムの引き込みを行い、研修が実施できる環境を整えました。

ガス設備のように、レガシー系の技術については、部材の入手が困難で技術者も限られており研修環境を整えるのは、非常に難しいのですが、今後団塊世代の大量の退職が見込まれ、技術の継承も必須であることから、東日本研修センタとしても積極的に取り組む課題であると認識しています。

3. 今年度新しく立ち上げた研修

今年度は、今年度の協会研修の方針(図2)に基づき、保守エリアの拡大などにも迅速に対応するため、短期間に10科班を新たに立ち上げることとしました。

(1) 宅内系

①訪問サポートサービス研修科(1日間)8回(1回10名定員、73名参加)

「訪問サポートサービス」メニューのうち、発注依頼実績の多いWindows PCおよびアップルPCの無線LANをはじめとした各種設定やセキュリティ設定の修得を目的としたもので、NTT中央研修センタで実施しました。

(2) RSBMの保守

②RSBM保守研修科(警報発生時の現地対応)(1日間)2回(1回10名定員の予定であったが、要望が多かったので追加対応、26名が参加)

RSBMの警報発生時における現地対応方法について実機を用い実習主体に行うことで緊急時(雷害)などにおける回復措置が一人称で実施できるスキルの修得を目的としたものです。

③RSBM保守研修科(BATT、OH

H25年度の協会研修は、安全・品質に対するより厳しい要求、保守・運用業務の拡大、および新サービス・希少技術継承等の期待に応えていけるよう、従来のベースに新たな科班の新設や見直し等を行い対応していく。

1. 安全・品質に関する対応

- 高所作業、誤接続防止等の内容を盛り込んだ研修の充実
- 危険体感研修、安全パトロール研修、PSF手法研修等の実施

2. 保守・運用業務の拡大

- 一元的業務委託エリア(Cエリア)での保守運用スキル向上の研修実施<東>
- アクセス系・宅内系の協業拡大に向けたコラボ研修の実施<西>

3. 新サービス・希少技術継承への対応

- Wi-fi新サービスの内容取り込み・フレッツ光Wi-fiアクセス等
- 誘導対策等希少技術の設計等

4. その他

- 技能五輪のスキル向上
- 公的資格取得(工事担任者資格等)推進
- グローバル時代に対応した研修
- 公開講座、インターンシップ研修の実施

図2 平成25年度協会研修の方針



図3 訪問サポートサービス研修科

対応) (1日間) 2回 (1回10名定員、19名参加)

RSBMのバッテリー交換手順、オーバーホール手順を実機で行うことで定期点検時等におけるスキルを修得することを目的としたものです。

両研修ともにNTT中央研修センターで実施しました。

(3) Optosの操作

④Optos操作研修科 (設備運営系) (2日間) 東京2回と北海道1回で計3回 (1回10名定員、25名参加)

第三者加害事故など発生時の迅速なサービス回復に向けた初動時の各種設備データの参照および設備点検等の各種データ登録などを一人称で実施するスキルの修得を目的としたもので、今回はNTT-MEの施設2カ所 (東京は錦糸町、北海道は札



図5 OPTOS操作研修科 (設備運営系)
(上が東京、下が北海道)



図4 RSBM保守研修科

幌) で実施しました。

⑤Optos操作研修科 (設備構築系) (3日間) 1回 (20名定員)

Optos機能概要、設計作図、競合工事の対処、竣工処理等実施設計に必要なOptos操作を修得することを目的としたもので、第4四半期に実施する予定です。

(4) 設備点検、不良判定等

⑥設備管理研修科 (保全企画) (1日間) 2回 (1回15名定員、18名参加)

所外設備全般についての模擬設備を用い実習することで点検方法や不良判定、各種提案方法等の基礎スキルを修得することを目的としたもので、NTT中央研修センターで実施しました。

(5) 折衝業務

⑦社外折衝実務者研修科 (1日間) 1回 (30名定員、14名参加)

お客様からの支障移転申請に対する折衝方法および回避、縮小の考え方等社外折衝に関する基礎スキルの修得を目的としたもので、東日本研修センターで実施しました。

⑧社外折衝マネジメント研修 (2日



図6 設備管理研修科 (保全企画)



間) 1回 (30名定員)

渉外・占用・支障移転の各業務および道路、河川法や土地使用等に関する知識を学び実務者の指導ができるスキルを修得することを目的としたもので、第4四半期に実施する予定です。

(6) 資格取得

⑨光施工技術資格取得研修科 (接続) (1日間) 1回 (20名定員、12名参加)

地下・架空光ケーブルの施工方法や法規関連の知識を習得することを目的としたものです。

⑩メタル施工技術資格取得研修科 (接続)

(1日間) 1回 (20名定員、7名参加)

地下・架空メタルケーブルの施工方法や法規関連の知識を習得することを目的としたものです。

両研修とも東日本研修センターで実施しました。

4. 受講生の反応

これらの研修を受講した皆さんのアンケート結果をみると、

- ・少人数で講師の方の目配りも素晴らしく、社内の他のメンバにも受講させたい (訪問サポートサービス研修科)
- ・自分のスキルに合っており、すでに知っていることでも確認することであいまいだったところが明確になり自信をもって仕事に活かせる (訪問サポートサービス科)
- ・実機に触ることができ、パッケー

ジ交換などを経験できるのはとても勉強になった (RSBM保守研修科)

・「こんなこともできる」という内容があり、実務に非常に役立つ (Optos操作研修科)

・テキストがわかりやすくとても良かった。Cエリア研修をもっと増やして欲しい (設備管理研修科)

・とてもわかりやすい研修だった。社内で展開していきたい (資格取得研修科) など、研修に満足された意見をたくさんいただきました。

5. 研修の立ち上げにあたって

今回、これらの研修の立ち上げにあたっては、早急なスタートが望まれていたことから、NTT東日本様およびNTT-ME様などの多方面で

絶大なるご協力をいただき設備等の研修環境の利用や講師派遣などの対応をしていただきました。

保守・運用業務に関しては、最新の設備や過去に導入したさまざまな設備等の環境が必要なことから、これらの環境をすでに有し、NTT東日本グループの社員様に研修を実施されているものを一部利用させていただくことにより、短期間で品質の高い研修を実現することができました。

今後も、東日本研修センターの研修設備に加え、NTT東日本様やNTT-ME様との連携をさらに深め、これらの研修環境を組み合わせることにより、より良い研修を会員会社のみなさんにご提供できるようカリキュラムを

検討していきたいと考えております。

6. 来年度以降の対応

今回スタートさせたこれらの研修は今年度の後半からパイロット的な点も意識しスタートさせており、参加者の皆さんの意見なども取り入れ、来年度本格展開をさせていただく予定です。

また、来年度新たに、「光故障切り分け研修」などを追加し、一層の研修内容の充実も図る予定です。

7. おわりに

引き続き、世の中の動向にマッチし会員会社の皆様に役立つ研修を実施していきますので、皆様のご協力をお願いいたします。

◆高度情報通信推進協議会様から功労賞をいただきました！

技能五輪大会職種「情報ネットワーク施工」並びに情報配線施工技能検定が今年で10年を迎えたことを記念し、これらの活動に貢献された個人および団体に平成25年11月21日に功労賞が贈呈されました。情報通信エンジニアリング協会も団体として贈呈を受けましたので、ここにご報告させていただきます。

<贈呈の理由>

技能五輪全国大会に、競技委員および補佐員として協力をいただいている。また、技能検定事業に多くの技能検定員の選出や海外展開事業への支援等をいただいている。

